（別紙６）

［認知症対応型共同生活介護用］

１．　評 価 結 果 概 要 表

作成日　平成20年8月12日

【評価実施概要】

事業所番号	０９７０７００２４１		
法人名	社団医療法人英静会		
事業所名	グループホーム憩のもり		
所在地	栃木県日光市根室６０７－７ （電　話）０２８８－３２－２００６		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草１－１０－６		
訪問調査日	平成20年7月25日	評価確定日	平成20年8月12日

【情報提供票より】（平成20年7月4日事業所記入）

（１）組織概要

開設年月日	平成12年5月1日		
ユニット数	１ユニット	利用定員数計	９人
職員数	８人	常勤8人，常勤換算8人	

（２）建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り
	1階建ての1階部分

（３）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	84,000 円		その他の経費（月額）	・理美容代―2,000円 ・おむつ代―165円
敷　　金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	―
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,520 円		

（４）利用者の概要（平成20年7月4日現在　）

利用者人数		９名	男性	１名	女性　８名
要介護１		１名	要介護２		２名
要介護３		５名	要介護４		１名
要介護５		名	要支援２		名
年齢	平均	86 歳	最低	78 歳	最高　98 歳

（５）協力医療機関

協力医療機関名	森病院、田野井歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホーム名のとおり静かな森の中の佇まいである。庭には烏骨鶏の鶏舎があり、中庭ではウサギが飼われている。昨年から共用型デイサービスを始めた。当初は、入居者への影響なども心配したが、結果的に入居者・利用者お互いに良い刺激になっていると管理者は感じている。訪問日には、近所の方がホームを訪れ、非番の職員もボランティアとして駆けつけて入居者・利用者と一緒にまんじゅうづくりをしていた。また、入居者と将棋を指したり、1対1で入居者と会話をしている職員の姿も見られ、モットーとしている「ゆったり、たのしく、いっしょに」の実践の様子が垣間見えた。管理者は看護師で医療連携体制加算の指定を受けており、母体である協力医療機関とも24時間連絡が取れるようになっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4）
	前回の外部評価以降、共用型デイサービスが始まったり、食材を宅配から買い物に変えたりしている。昨年は実施できていなかった避難訓練も先ごろ実施した。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	前回の自己評価は、職員で何回か話し合いを持った上でまとめたが、今回は昨年の状況を参考にしながら管理者がまとめ、職員に確認してもらった。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）
	入居者家族、地区民生委員、ボランティア代表、地域の方、市の担当者、地域包括支援センター職員に参加してもらい、ホームの現状を報告したり助言をもらったりしている。運営推進会議のメンバーと一緒に餅つきをしたり、ホームの日常を映したビデオを見てもらったりと内容の工夫もしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）
	家族の訪問時に近況報告をし、また必要に応じて電話やメールで連絡している。毎月、職員が交代で「憩いのもり新聞」を作成して送付している。また入居者の写真を撮り、たまったら家族に渡している。玄関に職員の顔写真を張り出している。預かり金は家族が訪問した際に確認してもらっている。運営推進会議に参加してもらっている家族代表から率直な意見を寄せてもらえるようになり、参考にしている。家族から要望等があった時には申し送りノートで職員間の共有を図っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	ホームは森に囲まれた閑静な場所にある反面、近隣に住宅がほとんどなく、日常的な交流が難しい場所にあるが、ボランティアや育成会との交流など地域の方との交流に努め、どんど焼きなど自治会の行事にも参加している。訪問日には近くの方の協力で、まんじゅうづくりをしていた。

2．　評 価 結 果 （詳細）

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「3つの合言葉」としてホームの理念をまとめ、玄関に掲示している。ゆったり、たのしく、のんびりをモットーにしている。管理者は、地域との関わりについても明文化したいと考えている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の生活の中や会議などで確認しながら理念の実践に努めている。雑用的なことは手早く行い、入居者と一緒に過ごす時間を持つことを大切にしている。訪問日にも職員と入居者が1対1で話をしている場面が多く見られた。	○	地域との関わりも増えてきており、また管理者は地域密着型サービスとして地域との関わりについても理念として明文化することを考えている。これを機会に改めて職員間で話し合いを持ち、理念について考えながら思いを共有していく場として活かしていくことにも期待したい。
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームは森に囲まれた閑静な場所にある反面、近隣に住宅がほとんどなく、日常的な交流が難しい場所にあるが、ボランティアや育成会との交流など地域の方との交流に努め、どんど焼きなど自治会の行事にも参加している。訪問日には近くの方の協力で、まんじゅうづくりをしていた。	○	餅つきなどホームの行事を利用して地域の方に来てもらったり、地域の住民にボランティアとして生け花や手打ちラーメン、まんじゅうづくり等積極的に協力してもらえる関係をつくっている。また、老人会や自治会との連携も深めていきたいと考えており、今後も工夫しながら当ホームならではの地域との関係づくりをしていくことに期待したい。
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価以降、共用型デイサービスが始まったり、食材を宅配から買い物に変えたりしている。昨年は実施できていなかった避難訓練も先ごろ実施した。前回の自己評価は、職員で何回か話し合いを持った上でまとめたが、今回は昨年の状況を参考にしながら管理者がまとめ、職員に確認してもらった。	○	自己評価の機会を更に有効に活かしていく意味でも、職員全員で取り組み、ホームの良い部分や現状での課題などを共有していく機会として活用していくことにも期待したい。

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者家族、地区民生委員、ボランティア代表、地域の方、市の担当者、地域包括支援センター職員に参加してもらい、ホームの現状を報告したり助言をもらったりしている。運営推進会議のメンバーと一緒に餅つきをしたり、ホームの日常を映したビデオを見てもらったりと内容の工夫もしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者は運営推進会議に毎回参加している。運営推進会議開催当初はホームでの体験をしたいという市担当者の意見から、一緒に餅つきをしてもらったりしたこともある。管理者は市が事務局を担っているケアマネジャーの連絡会の会長も務めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時に近況報告をし、また必要に応じて電話やメールで連絡している。毎月、職員が交代で「憩いのもり新聞」を作成して送付している。また入居者の写真を撮り、たまったら家族に渡している。玄関に職員の顔写真を張り出している。預かり金は家族が訪問した際に確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に参加してもらっている家族代表から率直な意見を寄せてもらえるようになり、参考にしている。家族から要望等があった時には申し送りノートで職員間の共有を図っている。	○	管理者は入居者個々にあったケアをしていきたいと考えている。このために家族との連携を深めるという意味でも、運営推進会議に参加してもらっている家族以外からも率直な意見を聞けるような工夫・配慮をしていくことにも期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	昨年度は管理者を含めて3人の異動があったが、今年度は異動や離職はない。職員全員が常勤職員となっている。異動があった時は家族に文書で連絡して理解を求めた。管理者の引き継ぎには1～2か月程度かけるなど入居者に影響がないように配慮した。共用型通所介護を始めたこともあり、管理者は当面は今のスタッフでホームを運営していきたいと考えている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同法人の介護老人保健施設が隣接しており、1～2か月に1回の研修や部署ごとの研究発表の機会がある。この1年は外部研修の機会が少なかったこともあり、管理者は、できる限り多くの職員が外部研修を受講できるような体制をつくったり、資料を集めることなどを考えている。	○	研修に参加しやすい体制づくりの一環として、研修機関等で発行する年間研修実施計画などを参考に研修参加をある程度、計画化しておくことなども期待したい。また、毎月開催する職員カンファレンスの時間を活かして勉強会的な時間をもつことなどを検討してみることにも期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に加入し、役員を担ってもいる。また、近隣のグループホームとの連絡会に参加している。近所のホームとの交流もあり、夏祭りへの招待を受けて入居者と職員で参加する予定である。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	現管理者になってからは新しい入居者はいないが、以前は入居前に見学をしてもらったり、他入居者との関係性などを考慮しながらホームに向く方かどうか検討していた。昨年から共用型通所介護事業を開始しており、今後は通所で馴染みの顔や場をつくった上での入居ということも想定される。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者のできることに配慮しながら、料理の下ごしらえや皿洗い、茶わん拭き、モップがけなどを一緒に行っている。訪問日には、近所の方と一緒にまんじゅうをつくったり、職員と将棋を指している入居者の姿が見られた。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
１．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者には「どうしますか？」といった選択できるような声のかけ方をして、その時々の希望や意向を把握するようにしている。困難な場合は本人の言動や家族からの情報をもとに本人の希望を推測している。	○	管理者（兼計画作成担当者）は、センター方式のアセスメントを使ってみることなども考えている。本人の暮らし方や生き方の希望をより良く知り、ケアに活かしていくためにも更なる充実に期待したい。
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	毎月の職員カンファレンスや申し送りノートで情報を共有している。また職員の担当制をとっており、シートを用いて1か月毎に職員と計画作成担当者とでモニタリングを行い、本人・家族の意向を踏まえて介護計画を作成している。	○	記録や介護計画作成の方法などを再構築することを考えている。現在は入居者ごとに24時間の状態を記号を交えて詳細に記録している。今後、本人の言動などから介護計画に活かしていく記録手法の検討などにも期待したい。また、サービス担当者会議に本人や家族、必要な関係者に同席してもらうなど、更なる充実に期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は大まかには1年間で考えながら、毎月モニタリングを行い、また入居者ごとに24時間の状態を記録し、心身の状況の変化に合わせて介護計画の見直しをするよう努めている。		
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算、共用型通所介護の指定を受けている。共用型通所介護が始まり、入居者にも良い意味での刺激になっている。通所の利用時間は柔軟に対応している。また入居者に対しても、通院の支援や買い物など柔軟な支援に努めている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関は同法人の病院になっているが、本人・家族の希望でかかりつけ医を決めてもらっている。同法人の病院には24時間相談できるようになっており、2週間に1回の往診もある。職員が通院の支援をすることも多く、家族と連携をとりながら適切な医療が受けられるように配慮している。看護業務日誌での記録化もしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制加算の指定を受けており、「重度化した場合における対応及び看取りに関する指針」を定めており、本人・家族に配布、説明して署名をもらっている。管理者が看護師であり、法人の病院とも24時間連絡が取れる体制になっている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1．その人らしい暮らしの支援** **（1）一人ひとりの尊重**					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者を「ちゃん」付けで呼ばない、口調や言い方に気をつけた対応を心がけている。居室の扉には大きな明かり窓があるが、入居者によってはカーテンやポスターで視線を止めている。また、入居者が居室に自分で鍵をかけられるように簡易鍵をつけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まった日課はない。朝、掃除をして午前中は通所の方が入浴したり、散歩や買い物に出掛けたりし、午後は入浴をしたり体操やボールを使ったレクリエーションをすることが多い。訪問日には、まんじゅうづくりをしていたが、参加を無理強いすることなく、職員と話をしたり将棋を指したりとそれぞれ思い思いに過ごしていた。	○	ホームとしては「小規模的集団ケア」ではなく、個々への支援ということを目指している。訪問日にも休みの職員がボランティアとして手伝いに来ていたりと、さりげない努力をしている姿が見られた。今後も個々の希望を探り、また個々の持てる力を活かしながら、一人ひとりが充実した一日を過ごせるような支援を追求していくことに期待したい。

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	以前は食材の宅配を利用していたが、夕食はおかずのみを仕出し屋から取るようにし、朝・昼食用の食材については買い出しに出掛けるようにした。買物が入居者への良い影響にもなっている。入居者のできることに配慮しながら下ごしらえや後片付けを一緒にしている。近所の方やボランティアの方の協力を得てまんじゅうやラーメンなどを入居者と一緒につくったりもしている。職員も入居者と一緒に同じものを食べていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午前～17:00ぐらいの時間帯で入浴を支援している。午前中は通所の方が入浴することが多い。入浴の苦手な方もいるが週に2回程度は入浴してもらえるように支援している。	○	夜間帯の入浴を支援したいとも考えている。職員の勤務体制の検討の必要性も考えられるが、本人の希望や習慣などを踏まえて支援を充実していくことに期待したい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事や園芸、畑仕事、買い物、将棋などの支援をしている。近所の方やボランティアの方の協力を得て生け花やラーメンづくり、まんじゅうづくり、たけのこ掘りなどの機会もつくっている。夕方にレクリエーション的な時間をつくるようにもなった。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物、畑仕事などのほか、玄関先にイスとテーブルを出して食事をしたり、季節ごとの外出の機会をつくっている。	○	管理者は社会参加や個別支援といったことを大切に考えている。食材を買い出しにいくことで外出の機会も増えているが、今後も一人ひとりの希望にそった外出の支援を更に充実していくことに期待したい。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の内扉にセンサーやウィンドチャイムも付けているが、職員が見守り、日中は玄関に鍵を掛けていない。万一のときの事故防止も考えて、警察にも協力をお願いしている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	前回の外部評価時には実施できていなかったが、7月に入って、夜間を想定した避難訓練を実施した。過去の運営推進会議で地域との消防団との連携などの話題もでている。隣地に同法人の老人保健施設があり夜間でも5名の職員がおり、応援を得やすい体制になっている。	○	今後も定期的に訓練を実施していくことを期待したい。また、ホームの立地特性や併設施設との連携、地域の方や消防団等の関係機関との連携などについて改めて整理しておくことも期待したい。
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者個々に24時間の状態記録をしており、必要に応じて食事・水分の摂取量も確認・記録している。夕食はおかずのみを仕出し屋からとっており、朝・昼食の献立は、外注している夜の献立を記入後、栄養のバランスに配慮しつつ3日分くらいずつたてている。現在は特に行っていないが、以前は専門家にチェックをお願いしていた。	○	食材の調達方法を変更したことで、買い物の機会が増えたり、売り出し等によってメニューを変えたりと柔軟な支援につながっている。食事からの入居者への支援を更に充実させるという意味でも、以前実施していた、定期的な専門家によるチェックのお願いを再考してみることも期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり **（1）居心地のよい環境づくり**					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは広く、リビング兼ダイニングのテーブルの他に畳スペースもある。室内には入居者が生けた花が飾られ、また訪問日には七夕飾りがされていた。中庭にはウサギがおり、庭には鳥小屋があり烏骨鶏が飼われている。光や音などは適切に配慮され、空気のよどみ等もなかった。通所の利用者用の布団や使用していないイスなど、収納に苦慮している様子もうかがえた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具やテレビ、また遺影や仏壇などを持って来ている方もおり、それぞれの居室づくりをしている。また、居室入口の扉のガラス部分が大きめになっているが、気になる方はカフェカーテンやポスターを視線止めにしている。入居者が自分で鍵をかけられるように簡易的な鍵もつけている。		

※ ▒ は、重点項目。

※ ＷＡＭＮＥＴに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式１）を添付すること。